



題字 足立区長 近藤 やい

足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 中田 貢弘
編集 広報部会
発行日 2008年7月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1



真夜中のコンサート 鹿浜第一小3年 渡部未菜子 作

目次

合同会長紹介	2
部会長紹介	3
部会長紹介	4
心の健康	5
子育て応援団	6
成年後見制度	7
民児協だより	8
編集後記	



よろしくお願ひします

スクラム組んで前進

有賀純三 福祉部長

地域の中での人と人のかかわりが希薄化するなかで、民生・児童委員の皆様には、熱意と温かさ溢れる活動を続けていただき、心より感謝申し上げます。福祉を含め、社会保障制度が絶えず揺れ動いており、不安を感じている方も少なくないと思われま。このような時こそ、地域の支援ネットワークを強固なものにしていくことが重要です。民生・児童委員の皆様とスクラムを組んで前進したいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。



孫子の代まで……

伊藤良久 福祉管理課長

昭和54年、新卒の私は、ケースワーカーとして江北地域を自転車で回っていました。今思うと、世間のことは何も分からぬ若造が、4年間、福祉事務所で仕事できたのは、温かく激励し、ご指導いただいた、担当の民生・児童委員の先生のお陰と感謝しております。

この度、また、皆様と仕事ができることを、大変嬉しく、誇りに思ひます。孫子の代まで誇れる足立の福祉づくりのため、全力を尽くしますのでよろしくお願ひいたします。

各 合 同 会 長 紹 介



第一合同会長 安藤順子

合同会長をお引き受けし日々緊張しています。民生・児童委員の活動は年々多様化され複雑になってきています。第一合同は荒川と隅田川に挟まれた千住地区で、区内で最も災害に弱いとされる地域です。1月31日に区の防災会議が開かれ、民生・児童委員を代表して出席してまいりました。災害時、区ではどんな対策がとられているか、様々な見

地から検討され準備が進められているとのこと。

私たち民生・児童委員は“災害時一人も見逃さない”をスローガンに掲げていますが、責任の重大さを痛感しています。高齢化率も高く一人暮らしの方が多いためこの地区で、地区会長をはじめ委員の皆様は多くの問題を抱え頑張っています。新任委員の皆様のご活躍も期待しています。



第二合同会長 猪俣勝美

日本一の旅館ホテルは能登和倉温泉「加賀屋」だと言われていましたが、今は北海道阿寒湖温泉「鶴雅」だそうです。平成12年JTB最優秀旅館ホテルで全国第1位になりました。鶴雅は以前の阿寒グランドホテルといい、20年前には苦情が多く大手旅行代理店から送客停止を受けました。それから数年かけて従業員教育、建物の新築、部屋の

改修工事を行い、12年前ホテルを「鶴雅」に改名し、立て直しました。接客で大切なことは、お客様が今、何を求めているかを予測し、それに答えることだと女将は述べています。人に接する時は「目配り」「気配り」「心配り」が大切です。民生・児童委員、主任児童委員は三つの「配り」を心して、人々に接し、更なるご活躍を期待しています。



第三合同会長 宮田壽美子

このたび、一斉改選で第三合同の会長をお引き受けいたしました。職責の重大さに身の引き締まる思いであります。ご承知のとおり民生委員の協力委員制度は4月より始まり、共に民生委員活動が出来ればよいと考えております。子どもや青少年の問題、また高齢化に伴う介護支援など、私たちが相談者の身になって素早く対応し、一人で悩まず関係機関と連携し、早期に解決をしていかな

ければならないことがらが沢山あると思います。近藤区長はあだち広報で、子どもがより良い環境のもとで成長できるように子育てを応援し、また寝たきりのお年寄りをなくすため、いろいろな事業やサービスを行うことを約束しています。これからも行政と協力し、民生・児童委員活動を精一杯進めてゆく所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。



第四合同 8地区会長 阿出川信夫

「気持ちよい生活を作ろうと思ったら、済んだことをくよくよせぬこと。減多なことに腹を立てぬこと。いつも現在を楽しむこと。とりわけ人を憎まぬこと。未来を神に任せること」ゲーテ（世界名言集より）。私の人生訓でもあります。第四合同は中部・西部福祉事務所管内85名とプラス

10名の協力員で活動しております。高齢化社会が進むにつれて、これからも多種、多様の問題が発生すると思いますが各機関と連絡を密にして、素早く対応し、問題を解決していかねければと思います。今後とも各委員皆様方のご協力と、ご指導をお願いします。（*第四合同会長（協議会会長・中田貢弘）は、前号の巻頭で掲載）



第五合同 13地区会長 八木富美子

足立区民生・児童委員協力員制度とは平成20年4月より、東京都知事の委嘱を受け、民生・児童委員の活動に協力するもので、事業実施主体は東京都ですが、各地区の依頼によって活動するものです。各地区民生・児童委員協議会ごとに3名を基本として25地区で区内合計75名ですが、現在66

名が委嘱され、各地区の実情に応じて各地区会長より業務内容を個別に依頼し、活動していただく制度です。民生・児童委員との協働によってより地域住民の共感のもとに協力や励ましを得ていくことが今後の民児協にとって何よりの推進力となっていたいただきたいものです。（*第五合同会長・岸一夫は検査入院のため）



鹿浜第一小5年 田辺博実 作

各 合 同 会 長 紹 介



第六合同会長 浅井米子

このたび、合同会長の大役を仰せつかり、日々責務の重大さに身が引き締まる思いであります。

西部・北部福祉事務所管内90名（14・15・瀏江・竹の塚地区）の民生・児童委員活動をお願いし、昨今の厳しい世相の中、悩みを抱える人々を助け、地域の「和」を大切に、早期発見で信頼と深い理解にと、さま

ざまなケースに突き当たります。相談者に手を差し伸べ、どのように繋いで行くかを試行錯誤しながら、問題解決の糸口を見つけ努力していきたいと思います。今後も福祉推進活動に向かって、地域との関わりを持つパイプ役として、地区会長と共に微力ではありますが可能な限り邁進して行きたいと思いません。



宮城小6年 矢口沙也子 作



第七合同会長 宮崎十三 (協議会会長職務代理)

昨年の12月、私は11枚目の委嘱状を近藤区長より受け、今までにない感銘を覚えました。午後1時より伝達式の開会、区歌の斉唱、民生・児童委員信条の朗読、そして日比谷課長から被委嘱者の呼名起立、区長のまなざしが、私達一人ひとりに話しかける。足立区民の福祉、行政との連携、そして世の中の寒さに震えている人達の救済を、

たのみますと心から発信するシグナルを私は感じ、改めて紙1枚の委嘱状の重さを知りました。これからも中田会長が、福祉のために充分な活躍が出来るように、また、すばらしい汗がかけられるように、私は職務代理として努力、お手伝いをさせていただきます。

皆さんどうぞよろしくお願い致します。

部 会 会 長 紹 介



子育て支援部会部会長 中浦君枝

他の研究部会は長年の活動経験をお持ちですが、私どもの部会は、足立区民協としては初めて発足するため、都民連の意向をうかがった上で、部員の皆さん方と相談しながら活動していこうと思っています。何分この原稿依頼が2月のことなので、まだ初回の部会も開いていない状態です。少子高齢化社会の中で身近に老人介護や、また、内孫4人をこの手で育てている体験の

中で、「子育て支援って何？」5つのWを皆さんとともに模索しながら、未来からの預り物である子どもたちを、健全に未来にお返すために、人としてどうふれあっていくことが大切なのかが一番大事なことなのではないかと、常々感じている私です。

どうぞよろしく申し上げます。



児童福祉研究部会部会長 大室博

急速に進む高齢化社会における少子化対策は重要な課題です。日本の将来を担う子どもは「国の宝」で健やかな成長が望まれます。昨今、児童虐待、養育放棄、非行、不登校など、児童を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。関係諸機関との連携、協力を大切にして問題解決に微力ではございますが、部員の皆様と一緒に取り組んで行

きたいと思えます。

3年間の任期の最初の1年目は児童福祉に特化することなく幅広い分野での研修、活動を行い日々真摯に勉強して行きたいと考えています。今後とも皆様の一層のご指導ご鞭撻をたまわりたくよろしくお願い申し上げます。

足立区は活動記録提出100%継続中です

研究部会会長紹介



障がい者福祉研究部会部会長 江川勇

私は、昨年11月に障がい者研究部会の会長に選任されました。民生・児童委員の経験は3年と浅く、障がい福祉に関して全くの素人であり、大変な任務を受けたと責任の重さを痛感しているところです。そこで個人的に関係施設を訪問し、見学させてもらいました。また足立区福祉事業概要書を熟読し、理解しようと努力しているところで

す。「ノーマライゼーション」という理念が社会で定着してまいりました。直訳すれば「正常化」という意ですが、障がい者福祉の最も重要な考え方で、障がい者が社会の中で普通の生活が送れる条件を整えるべきであるということです。部会委員25名が協力し研鑽して、立派な研究活動を実践できるように努力いたします。



生活福祉研究部会部会長 根木島大雄

生活福祉研究部会活動のスタートにあたり、「楽しく学習して福祉活動に役立てよう」を基本コンセプトに、今後3年間を部会員25名で活動していきたいと考えています。福祉行政の一例として、足立区は歴史的な背景から生活保護世帯数が東京23区で最も多く、また生活保護率は全国平均の2.7倍にもなっており更に増え続けています。

その結果、福祉事業に対して足立区の経営資源「人・物・金」の多くを投入せざるを得ない状況になっています。これらの実情をしっかりと学習し、民生・児童委員として何が出来るかを考えて福祉活動に役立たせることができれば幸いです。最後に、諸先輩の方々のご支援をたまわりますようよろしくお願いいたします。



高齢者福祉研究部会部会長 下嶋良三

足立区の高齢者福祉施策は、高齢者が地域でいつまでも元気に暮らせるしくみ作りが目標と聞いております。私達、高齢者福祉研究部会といたしまして、年間テーマ「高齢者に係わる、福祉状況を把握する」を研修いたしてまいります。内容として、高齢者の諸施設見学と福祉重点施策の習

得、自己研鑽をつみかさね、誰からも信頼され気楽に相談に応じられるよう、メンバー一同、一致協力してまいります。

関係機関をはじめ民生・児童委員の皆様方のお一層のご支援ご協力のほどお願い申し上げます。



主任児童委員研究部会部会長 小泉貞廣

主任児童委員は、各担当地域の幼稚園、保育園、小・中・高校、あるいは保護者からいろいろな相談や支援を依頼され活動しております。相談支援の内容は、学校でのいじめや不登校の問題、また増え続けている幼児・児童に対する虐待などの問題があり、案件ごとに関係する学校をはじめ児童相談所、家庭支援センターなどと緊密に連携をとりながら活動しております。

さらに、児童自立支援施設に入所している中学校卒業生を対象に、地域に帰ってからの半年間にわたって、生活上の相談や高校生活あるいは、就職活動や社会復帰がスムーズに進むようアドバイスや相談活動も実施しております。各種案件に対しては、地域の民生・児童委員の皆様のご指導をよろしくお願いいたします。



広報部会部会長 高野 季

今期改選において、部会長に選任され広報部発展のため誠心誠意頑張らせていただきます。再任者10名と新任者15名の部員が一丸となって紙面作りに努力してまいります。広報紙17号発行よりパソコンを導入し、宮本副会長指導のもと、新任者とレイアウト作りに取り組んでおります。細井編集長を軸にテーマ作り、地域行事などの取

材・資料集めを討議の上活動しています。また、皆様に依頼した原稿は、田中校正委員長と委員で校正をしております。これからも紙面の刷新と、内容の充実に創意し、皆様に「見てもらえる」「読んでもらえる」広報紙づくりに努めてまいりますので、よろしくご指導ご協力をお願い申し上げます。

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう 地域に根ざした 思いやり

まだ吐く息も白い今年の1月18日、足立シティオーケストラ団員による新春コンサートを千住保健総合センターで行いました。バイオリン、チェロ、ビオラの四重奏で奏でられた、どこか懐かしい旋律が心に響き、外の寒さがうそのように温かい気持ちになれたステキな時間を持つことができました。

ところで、今回のコンサートは「千住地域心の健康づくりネットワーク世話人会」の企画です。この世話人会は、医療機関や作業所等の関係機関のみで構成されていた管内連絡会でした。当時の連絡会では情報交換や学習会などを通して関係機関同士の交流を中心に活動してきましたが、ある時をさかいに「心の問題は当事者だけのものではなく、みんなの課題なんだ」という思いが生まれました。この問題を色々な人の力を借りて、みんなで取り組んでいきたいと考えるようになり、「だれもが気分よく暮らせる、私らしく生きられる地域となれるように…」そんな思いから、この世話人



会が生まれました。

発足当時より民生委員さんや健康づくり推進員さんをはじめとした地域の方々には大変お世話になっております。おかげさまで今年度は5名の当事者の方に健康づくり推進員として出ていただけることになりました。彼ら当事者の活動をきっかけに、地域との交流をさらに深めていけるよう、今後もみなさんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

(千住地域心の健康づくりネットワーク世話人会)

こころの健康フェスティバル

本年の「こころの健康フェスティバル」は、3月8日に行われました。例年通りバザーの協力のため、事前の担当者会議にて、全体の流れを確認し準備をしました。さて当日は、天気にも恵まれ、各地区から持ち込まれた品物は、50余人の分担で、300円、500円、700円、1000円、各コーナーに山と積み、10時半には販売準備完了しました。宮崎バザー担当部長の挨拶などのあと、交替で「いくさの前の腹ごしらえ」を済ませました。今や遅しとバザー開始を待っているお客様は、50～60人位はいたでしょうか。いよいよ開始の発声後、ドッ

と入るお客様に私たちも大声で呼び込みます。売るほうも、買うほうも、必死です。お目当ての品を探す人、「特価で買得」の呼び込みに目をうばわれる人。購入品の紙袋をいくつも下げた大荷物のお客様が多くなると、品物がどんどん減って13時頃には、各コーナーはあらかた売り切れとなりました。13時半には、中田会長の挨拶などあり、閉会となりました。本日参加の皆様、お疲れさまでした。

(6地区 森春枝 記)

アシスト とは

前篇

足立区障害福祉センター、愛称「あしすと」は、平成15年4月に障がい者の自立と社会参加を促進するため、幼児から成人までを対象として、様々な専門相談・評価・判定や訓練などの機能を備えた、障がい者(児)支援の中核機関として設置された区立の施設です。

今回は、社会的に関心が高まっている「発達障害」についてお話させていただきます。

「家庭では特に気になることはなかった。検診も問題なかった、このようなお子さんが、幼稚園、保育園や小学校での集団生活の中で、落ち着きがない、課題をやらない(できない)、同年代の子と遊べない、指示が聞けない」などの課題が生じる場合があります。このような指摘を受けたとき、大多数の保護者は戸惑ってしまうことでしょうか。しかも「甘やかして育てたのでは…」「愛情不足なのは…」と子育てに問題があったかのような言われ方をされるとなおさらですね。

実は、発達障害は早期に気づくことがむずかしい

「見えにくい障がい」です。しかも、その現れ方はきわめて多様性に富み、「個性や性格」「ふざけている」「しつけの問題」などと受け取られてしまいがちです。発達障がいに対する理解者が周囲にいないければ、本人や保護者の「困り感」はなかなか理解してもらえず、時が過ぎるほどお子さんの自信は低下し、保護者は疲れ果ててしまいます。そしてお子さんが思春期を迎える頃に、より大きな課題として、重くのしかかってくることになります。コミュニケーションや社会性、あるいは落ち着きの無さといった行動の問題は、「育て方の善し悪し」ではないことがあります。気がかりなことがあれば、「あしすと」など専門機関等に相談してください。就学前での早期発見・早期療育と環境改善によって、お子さんの「困り感」は軽減し、自信の低下から起こる「二次的障害」を防ぐことができます。

今回は、「発達障害」の特性について、少し詳しくお話します。

(足立区障害福祉センター)

障がい理解を深めるために

2月2日、足立区竹の塚地域学習センター・足立区教育相談センターの両施設を会場に、「第16回足立 子ども・福祉フォーラム」が開催されました。

障がいのある子どもと、その家族を支援するために地域の教育・福祉・医療の諸機関がどのように連携をとっていきけるのか、また地域住民、地域機関関係者の理解を深め、支援の輪を広げていくことを目指して、今年「あんしんして だれとでも つながるまち「足立」～赤ちゃんの時からくらしやすいまちへ～」をメインテーマに、参加者約300名が全体会のあと、4つの

分科会に分かれて、話し合いを持ちました。

オープニングは足立区立第一中学校E組の皆さんによる合奏、足立区長による開会挨拶に続いて、全体会では「我が子と共に」と題して、障がいのある子どもの親の視点から子どもの成長を通して地域で生活してきた体験談を、話題提起として受けました。各分科会では「就学・就労」「災害対策」「地域での仲間づくり」「障がいのある当事者同士の話し合い」について実り多い話し合い、活発な意見交換が行われました。

(うめだ・あけぼの学園 阿久津栄 氏)

東京都福祉局 民生・児童委員連絡会 安心して地域に住み続けることができる地域社会を目指して

第4回連絡会の開催にあたり都山口副知事、民生・児童委員連合会川尻会長、都議会比留間議長から、「会の内容を周知して今後の一助にしてほしい、日頃の活動に感謝をしています」と挨拶がありました。

都が取組む重要施策・予算などを説明し、併せて民生・児童委員の成果を発表する「相互の交流の場」とするため、1800余名が参加して盛況でした。

※「東京の福祉保健の新展開2008」について

【目指すは新しい自立の実現】

- 自ら積極的に健康づくり
- その人らしい自立へのチャレンジ
- 主体的に生活できる社会の構築【3つの視点】
- ライフスタイルや生活の全体をとらえ、ニーズを把握
- 大都市東京の特性を踏まえ、問題を克服し、強みを生かす
- 民間の力・地域の力・行政の力の「力を生かす」

—平成20年4月20日(火) 文京シビックホール

より効果的に、より効率的に施策を展開し説明がありました。今回の連絡会資料は改めて皆さんに配布予定とのことです。

※第2部 災害要援護者への対策について体験発表

- 「災害時要援護者の支援を考える」
鍵屋一板橋区契約管財課長(前板橋福祉事務所所長)
 - 「町ぐるみで要援護者を見守るために—要援護者の災害時活用集計カードとカラーマップの作成」
町井佑一墨田区第七地区民生・児童委員協議会会長
 - 「災害時要援護者登録制度」
森田林三国分寺市民生・児童委員協議会会長
 - 「災害時要援護者対策の推進」
柏原弘幸都福祉保健局総務部副参事
- 貴重な体験のご苦勞を聞かせていただき有意義な連絡会でした。

(江南・新田地区 楠美順二 記)

良い子に育つ 開かれた学校づくり協議会



花保小学校の土曜の朝は、「花ほっ子クラブ」の時間。空手・球技・リズム体操のスポーツ系、自然体験・茶道・手編みなどの文化・学習系。全12種目・会員約180名で、毎土曜日に開かれます。講師も管理もすべて地域のボランティア・花保の先生・PTAで運営されています。土曜日をより楽しく過ごし、思いやりのある良い子に育ってほしいと願っています。子ども達の真剣な顔や楽しそうな様子が嬉しい。「家庭教育部会」では、子どもにも朝ごはんの大切さを知ってもらおうと、竹の塚保健総合センターと連携し、簡単に、栄養のある朝ごはんを親子で作りました。たくさんの方々の参加でとても好評でした。また、先日は親子で読書会を開き、幼い時に読んだ絵本の話をしていく間に懐かしく心なごむ時間が過ごせました。

(花保小学校・開かれた学校づくり協議会 新井博 会長)

権利擁護センターあだちに入ってきた成年後見制度の相談をご紹介します。「私（父親73歳）には、知的障がいを持つ子ども長女（41歳）がいます。これまでは私が子どもの面倒をみてきましたが、私も高齢であり自分の身体の調子も思わしくなく、私に何かあったとき子どもはどうなるのかと心配です。今、成年後見制度が話題になっていますが、私達親子にも使えるのでしょうか？」詳しく話を伺うと、相談者の妻は3年前に亡くなり、その後は慣れない家事や子どもが通う作業所の保護者会へ参加、そして家計の管理などを一人で切り盛りしてきたそうです。子どもは一人で作業所に通うことはできますが、読み書きやお金の管理が苦手です。子どもには兄弟はなく、相談者自身には兄や姉はいますが、遠方で自分より高齢であるため、と

ても頼ることはできない状況であることもわかってきました。この話を受けて、相談者である父親亡き後のことも考えると、成年後見制度の利用が望ましいことから、相談者である父親が後見人の候補者となって、申立てをするよう勧めましたが、相談者の心配な点が一つありました。それは、「自分が元気なうちは、子どもの後見人でいられると思うが、病気や自分が亡くなることで出来なくなった場合はどうなるのか？」ということでした。「その場合は、家庭裁判所が次の後見人を探してくれますから安心してください」と説明すると、申立てをする決心がつき申立ての準備に取り掛かることになりました。

（権利擁護センター アルマルカウイ 恵子 課長）

高齢者虐待への適切な対応について

平成18年より施行された「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく足立区の高齢者虐待対応についてご紹介いたします。

この法律では虐待の種類を、身体的・心理的・性的・経済的・介護放棄の5種類に分類しています。法律の構成としては、同居している親族からの虐待（養護者虐待）と、施設や介護事業者による虐待とに分けられています。特に養護者による虐待については、虐待の実態が明らかではない「疑い」のレベルでも、区民等が積極的に地域包括支援センター等へ通報するように協力を求めています。平成19年度、地域包括支援センターへの通報は約150件（内100件が虐待）に及んでいます。高齢者への虐待が明らかになった場合の基本的な対応方法は、まず虐待が高齢者の生命・身体へ及ぼす危険度を把握して、緊急に虐待家族から引き離す必要があるかどうかを判断することです。ただ、

通報される虐待の大半は、ごく初期の段階のもので、「虐待」という単語を使うことなく、ケアマネジャーが中心となって、養護者（家族）へのアドバイスや介護負担を軽減する工夫をして、その結果を見守るという対応が多くなります。

民生委員の先生方には、区民からの通報の仲介や、見守り段階でのご協力をいただくことが多いと思います。虐待関連のご相談は、まず最寄りの地域包括支援センターへご相談ください。よろしくご協力をお願い申し上げます。

（高齢援護係 渡邊一郎 係長）



鹿浜小3年 腰高潤平 作

江北中学校

やめなよと一言だけで救われる
二年 二瓶 咲

人と人大事にしようその絆
二年 高長根真澄

悪いこと誘う 悪魔は君の中
三年 吉澤 秀人

その一言言葉の重み知っている
三年 日吉 香織

あいさつで朝のスタート気持ちよく
三年 長谷川真理

社会を明るくする標語

民生・児童委員協議会からのお知らせ

日程	会議名	場所
6月～7月	ケースワーカー懇談会	各地区指定場所
7月11日(金)	会長協議会	区役所13階会議室
8月7日(木)	夏季懇親会	東武菜苑
8月20日(水)	全員研修会	西新井文化ホール
9月9日(火)	会長協議会	区役所13階会議室
9月10日(水)～16日(火)	合同地区民協	区役所13階会議室
10月期	合同地区研修旅行	各地区指定場所
10月14日(火)	会長協議会	区役所13階会議室

みんせいがわらばん

千住仲町会 「減災街づくりの取り組み」

平成14年10月 東京都が実施した、「地震時における、地域危険度調査で5073町会中「ワースト1」でした。これを機に行政はもとより千住消防署や区民事務所等のご協力をいただき、町会としてできることから念頭において、ワースト1脱出に立ち上がりました。一方、この状況をNHKが「難問解決“ご近所の底力”」に取り上げ放送に至りました。番組をきっかけに、「地震に強い町広め隊」を結成し、各家庭訪問による減災へのPRや対策の指導を実施しております。

地震対策は自分の手で格安簡単にできます。

①家具の転倒防止

新聞を折りたたみ、タンスや本棚の下に挟み込むだけで倒れる速度を減免でき避難に生かされる。

②テレビの落下や飛び防止

テレビの底面を両面テープで止めておく。体験者によると、震度6で約3m飛んで行くそうです。

③照明器具の落下防止

天井に取り付けられている取り付け金具に粘着テープで補強しておく。落下した器具の破損で、足場を失ったり怪我をしないようにするためです。

④窓ガラスの飛散防止

飛散防止フィルムを張ったり、カーテンを取り付けたりして、ガラスの飛び散りを防ぐ。セロテープで格子状に張るのも効果がある。

「減災は我々の手で」を合言葉に、今後も官民一体の精神で取り組み、進めていきたいと思っています。

(千住仲町会事務局)



民生委員・児童委員宛

災害時一人も見逃さない運動

編集後記

とにかく前向きでやってみようと引き受けた広報部。新入部員にとってはあっという間の「さくら」17号の完成でした。原稿が集まるにつれ、字句の修正、文章

の校正に至るまで、部員同士の献身的な苦勞が感じられ、言い知れぬ感激を覚えました。

(佐野地区 清水千鶴 記)

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、

第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。

■皆様の原稿を募集いたします(原稿は未発表のものに限ります)。次号発行予定日 平成20年11月1日
原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報部会

部会長	会計	校正	望月縫子	楠美順二	北村信也	大久保義子	秋本雅信
高野 季	川島恵美子	田中榮一	渡邊セツ	阿部美代子	校正委員	大城忠男	江川せつ子
副部会長	編集	編集委員	森 春枝	山下節子	下田尚保	清水千鶴	江川富美子
宮本勝男	細井力造	北嶋昭夫	渡辺照美	石鍋昭男	池田信江	加藤喜代子	鈴木重子